

屋久島の 魅力に迫る！

番外編



— 『ヤクスギランド』 ① —

屋久杉自然館から車で40分、標高1000m～1300mのヤクスギランドに到着です。向かう途中、だんだん道は細く、カーブ險しく、山を登っているのが車でもわかる程の坂道。道中、思いがけないヤクザルファミリーの遭遇で、一気にワクワクさせられました。その可愛いらしさは、不安な山道への思いを消してくれました。



到着しても相変わらず小雨。レインウェア、レインキャップ、カメラにも雨対策をし、入口で環境整備推進協力金（¥300）を支払いました。いよいよ入山？入園？！ ヤクスギランドへと足を踏み入れました。いざ登山！といういで立ちの私には、戸惑ってしまうくらい歩きやすく、お散歩気分に分けてくれる遊歩道のハイキングコースから始まります。すぐに出迎えゲートのような姿の「くぐり杵」を

通ります。幹周9.1m、樹高23mで、屋久島スギ原生林として国の天然記念物になっています。初めに会った巨木ゆえ、この先々を楽しませてくれそうな予感がしました。

「くぐり杵」の後も、歩道は整備されているけれど、辺りを見渡せば、見渡すほど、三河の山のような光景が飛び込んできました。あたり前なのですが、ココは屋久島です。訪れた時期は12月なのに、雨でコケやシダが青々しています。小雨まじりの天気のおかげ、しっとり濡れて生き生きしているんです。私はコケマニアじゃないけど、雨水を含んだコケの様子に、シャッターを切らずにはいられませんでした。他にも



倒木した木はそのまま残され、自然にコケや若葉が息吹いている光景（倒木更新）もアチラコチラに見られるのです。遊歩道のまわりは、深い深い森の中、太古の昔のままなのです。岩の上に力強く生える木、森の斜面で日差しを求め、根元が太く曲がっている木、合体木、など様々な姿かたちの木々。何より、屋久杉の巨大な切株（土埋木）もいたる所に残されています。



「森の神様に会いに行こう」の撮影でよく山を歩くのですが、切株更新や倒木更新は、これほど当たり前には見られないです。

生命の受け継がれる姿、時間の経過の中に足を踏み入れ、その場所に身を置くと、自然の大きさと深さに感動させられました。

ヤクスギランドは、森の姿をそのまま手軽に見られるようになっています。そう、ここは世界自然遺産の森でしたね。



総務 杉浦 久枝



NATURE DESIGN

岡崎製材株式会社